

第3回ホメオパシーワールドコンGRESS プログラム

1月18日(月)1日目 日本語オンライン配信はありません

※1月17日時点の情報、変更の可能性があります。

日本時間	開会式		インド時間	
1400	主催者 Dr.アニルバン・スクル (スクルホメオパシーリサーチ研究所ディレクター)		1030	
1407	主賓 Dr.アニル・クラーナ (インド政府AYUSH省ホメオパシーリサーチ中央評議会会長)		1037	
1412	特別名誉来賓 Dr. スプハス・シン (インド政府AYUSH省ホメオパシー国立研究所長官)		1042	
1417	名誉来賓 Prof. アシウィニ K スリヴァスタヴァ (インド政府パレオサイエンスDSTビルバル・サハニ研究所)		1047	
1422	重要パートナー Dr.パーヴィン・ザリン (バイオ・クオンタム・アカデミー 学長)		1052	
1426	重要パートナー Mr.ジョエル・アバロス (AHON 代表)		1056	
1430	重要パートナー Dr.ラセーシュ M (St.トーマスカレッジ 生化学部)		1100	
1434	技術的協力者 Dr.ラシン・チャクラヴァーティ (インド西ベンガルの名誉知事への医療コンサルタント)		1104	
1438	技術的協力者 Dr. MKサハニ (インド政府ホメオパシー中央評議会教育委員会会長)		1108	
1442	Prof. N C スクル (スクルホメオパシー研究所創始者)		1112	
日本時間	発表者名	発表タイトル	発表国	インド時間
1445 - 1530	Prof. N C スクル スクルホメオパシーリサーチ研究所 創始者 インド政府ダゴール国際大学理学部 元学部長	ホメオパシーのポテンシーにおける物理エンティティと人体における分子標的	インド	1115 - 1200
1530 - 1600	Dr.アニル・クラーナ インド政府ホメオパシーリサーチ中央評議会会長	高希釈ホメオパシーレメディにおける生化学と生物学的活動の証拠	インド	1200 - 1230
1600 - 1630	Mr.ジョエル・アバロス AHON代表	AHON ホメオパシーのプロトコルを伴うハイブリッド・ヘルスとヒーリングセンター	フィリピン	1230 - 1300
1630 - 1715	Dr. サンディーブ・ロイ インド統合腫瘍学研究所代表&会長	統合的腫瘍学におけるヤドリギ療法	インド	1300 - 1345
1715 - 1730	パネルディスカッション			1345 - 1400
1730 - 1800	Prof. ラセーシュ M St.トーマスカレッジ生化学部 准教授	肝毒性を誘発する薬物におけるバジジン・ココナッツオイル豊富なフォーミュラの肝保護的効果	インド	1400 - 1430
1800 - 1830	Dr. S. ラメッシュ スリランカ政府ホメオパシー療法家協会 副会長	胆石	スリランカ	1430 - 1500
1830 - 1900	Prof. ラシャ・ランガン インド政府IITグワハティ生化学と生体工学部 教授	カラジン - 対象分子	インド	1500 - 1530
1900 - 1930	Dr.サガリカ・ビスヴァス インド政府ゲノム科学と統合生物学研究所 科学と革新的研究アカデミー 主要科学者&教授	炎症性関節炎のバイオマーカー研究 - プロテオミクスアプローチ	インド	1530 - 1600
1930 - 2000	Dr. アブヒジット・チャトパディヤイ インド政府AYUSH省 国立ホメオパシー研究所 教授 元長官	ライコボディウムの兆候	インド	1600 - 1630
2000 - 2030	Dr. Md ジャハンギア・アラム バングラディッシュ政府厚生労働省ホメオパシー局 登記官 書記官	COVID-19パンデミック：ホメオパシー治療とやるべき事	バングラディッシュ	1630 - 1700
2030 - 2100	Dr.ジャイネイ・ゴッダード 英国補完医学協会 会長&創始者	治療の力を成長させるため、そして、ホメオパシーを世界的に促進するために私達は何かができるか？ チャレンジ分野における実践的解決法	UK	1700 - 1730
2100 - 2200	パネルディスカッション			1730 - 1830

1月19日(火)2日目 日本語オンライン配信はありません

※1月17日時点の情報、変更の可能性があります。

日本時間	発表者名	発表タイトル	発表国	インド時間
1815 - 1900	Dr. ダミア A シャカンベット 英国生体制御医学協会 会長	ホメオパシー療法的な生物規制医学	UK	1445 - 1530
1900 - 1930	Dr. ヴァニタ・ダヒア 統合医学 コンサルタント&作家	メンタルヘルスにおける代謝と生化学的な崩壊	オーストラリア	1530 - 1600
1930 - 2000	Prof.モハメド・ザシム・ウディン バングラディッシュ ダッカ大学植物学部	バングラディッシュの地元人に使われている心血管疾患への六つの薬草の血栓溶解活動	バングラディッシュ	1600 - 1630
2000 - 2030	Dr.ファイサル・モハメド・ハニフ・ギラチ マレーシア・サイバージャヤ大学 伝統&補完医学ファクリティ 講師	私の農業ホメオパシーとの歩み	マレーシア	1630 - 1700
2030 - 2100	Dr.ムリドル K サハニ RISDTH会長 ホメオパシー科学コンGRESS協会	急性発熱に関する症例とCovid19におけるホメオパシー医学の遷移	インド	1700 - 1730
2100 - 2130	Dr.ディーバンジャン・マジュムダー インド政府CSIR国立環境工学リサーチ研究所 科学者&ヘッド科学者&CSIR長	大気汚染と合併症に関連したCovid-19とのリンク	インド	1730 - 1800
2130 - 2200	パネルディスカッション			1800 - 1830
2200 - 2230	Prof. レオニ・ヴィラノ・ボナミン サンパウロ州立パウリスタ大学 正教授	ホメオパシーと生物の復元力	ブラジル	1830 - 1900
2230 - 2300	Prof. カーラ・ホエンディノ・クアレスマ リオデジャネイロ連邦大学 正教授	ホメオパシー：ブラジルの法律と科学的側面	ブラジル	1900 - 1930
2300 - 2330	Dr. セエダグハノア・サディキ 医師、ホメオパス	Covid19患者の根本治療	イラン	1930 - 2000
2330 - 2400	Dr.バルヴィン・ザリン バイオクオンタムアカデミー 会長	肥満は病気ではない；それは疾患兆候。ホメオパシーを使った減量における研究	カナダ	2000 - 2030
2400 - 2430	Dr.ベハザド・バリクビーン LifeWave Inc	ライフウェーブ・フォトセラピーによる若返り	カナダ	2030 - 2100
2430 - 2500	Dr. アンゲリカ・マリア・コッホ バイオクオンタムアカデミー 教育者 ニューメキシコ大学 助教授	メンタルヘルスケアにおけるバルノゾースの利点	USA	2100 - 2130
2500 - 2530	パネルディスカッション			2130 - 2200

第3回ホメオパシーワールドコンgresプログラム

※オンライン配信 日本からの日本語での参加プログラムは以下のプログラムのみとなります

1月20日(水)3日目

※1月17日時点の情報、変更の可能性があります。

第1部 JPHMA症例・体験談発表(日本独自プログラム)

日本時間	登壇者	プログラム	発表国
1100	松尾敬子JPHMA会長 由井黄子JPHMA名誉会長	ワールドコンgres(日本の部)開会 開会あいさつ 開会あいさつ ホメオパシーワールドコンgres1日目のハイライト	日本
1115	道繁良 JPHMA No.0742 日本ホメオパシーセンター島根安来	コロナ禍でオンライン相談と霊水のレメディーが救いとなった2つのケース	日本
1130	新城英一 JPHMA No.0452 日本ホメオパシーセンター誼谷トリイ	余命宣告から奇跡の回復 犬 急性腎不全のケース	日本
1145		豊受オーガニクスショップからのご案内 (Faithチョコなど)	
1150		休憩 (おもてなし)	
1200	小林智美 JPHMA No.0984 日本ホメオパシーセンター東京総本部	慢性症状がホメオパシーと自己の内面に向き合い癒すことで大きく改善したケース	日本
1215	菊田雄介 JPHMA No.0406 日本ホメオパシーセンター東京総本部	ZENホメオパシーで長期の便秘と自分を責める傾向が改善したケース	日本
1230	松尾敬子JPHMA会長 日本ホメオパシーセンター埼玉日高	肺がんが改善されたケース	日本
1250	松尾会長、由井名誉会長	午前の部総評	日本
1300		午前の部閉会	

1300 - 1400 昼食休憩

第2部 ワールドホメオパシーコンgres(日本語通訳付き)

日本時間	発表者名	発表タイトル	発表国	インド時間
1400 - 1445	Dr. スプハス・シン インド政府AYUSH省 国立ホメオパシー研究所	不眠とそのホメオパシーによるマネジメント	インド	1030 - 1115
1445 - 1515	Prof. シュリバド・ヘッジ インド政府ホメオパシー医学大学院 元教授	リサーチ重視の症例	インド	1115 - 1145
1515 - 1545	Dr. ラドクリシュナン K ネイア インド政府ケララ州ジャワハルラール・ネルー熱帯植物園リサーチ研究所 元科学者	インド、ケララ州のCOVID-19予防に対する伝統医学	インド	1145 - 1215
1545 - 1615	Dr. アルカ・グプタ WHO専門家 AGATHヘルスケア創業者	RASAYANAセラピー:アーユルヴェーダからの恩恵	タイ	1215 - 1245
1615 - 1645	Dr. ソーマ・スカル インド政府 タゴール国際大学植物学部 准教授	植物モデルを通じたホメオパシーレメディー作用メカニズムにおける研究	インド	1245 - 1315
1645 - 1715	Dr. オリバランビル S N ゴシュ 科学者、ARL & Head、ホメオパシー研究 インド政府ケララ州AYUSH省ホメオパシー教育部	COVID-19への個別化した精密医療アプローチとグリセラーとされたAS ₂ O ₃ のナノ機能性由来物の非特性免疫原性(アーセニカム・アルバム30C)	インド	1315 - 1345
1715 - 1745	パネルディスカッション			1345 - 1415
1745 - 1815	Prof. アーロン・トゥ・カ・ラン 香港ホメオパシー協会、マカオホメオパシー協会会長	COVID-19パンデミックにおける臨床と研究経験	香港	1415 - 1445
1815 - 1845	Dr. ピーター H ケイ 西オーストラリア大学 元教授	ホメオジェネティック:ホメオパシーは、どこへ向かうことができるか?	UK	1445 - 1515
1845 - 1945	由井黄子ホメオパシー博士 JPHMA名誉会長	ZENホメオパシーは、魂・心・体を癒す植物たちの恩恵なくてはありえない。ホメオパス自らが農民になろう!	日本	1515 - 1615

日本からの参加終了(20時ごろ終了予定)

※以下は、日本向け(日本語通訳つき)オンライン配信ありません。

1945 - 2015	Prof. ロナルド・ムア ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン 教授	生物医学の時代における民間療法	アイルランド	1615 - 1645
2015 - 2045	Dr. スディプタ・ナラヤン・ロイ MD、Powellグループ会長、AYUSH委員会、 ニューデリー経済発展フォーラム会長、 TGTD(NITI Aayog会員)	インドのホリスティックアプローチ - 医療の未来	インド	1645 - 1715
2045 - 2115	Dr. バンサレ・タバサム・アリフ Ayurvedカレッジ Dravyagunavidnyan(薬草の薬効と詳細研究)部 准教授	ハーブ医学:臨床と研究	インド	1715 - 1745
2115 - 2130	閉会			1745 - 1800